

変わり三献上博多織帯 「水面に華サクラ」

2014年7月
Obi sash of variant kenjo Hakata with three stripes
"Blossoms on running water"

大淵 和憲
Kazunori Obuchi

博多織手機技能修士
NPO法人博多織デベロップメントカレッジ講師
東京家政学院大学非常勤講師

1973年 福岡県生まれ
1992年 修猷館高等学校卒業
1997年 京都大学総合人間学部人間学科卒業
1997年～2013年 株式会社テレビ新広島勤務
2015年 博多織デベロップメントカレッジ修了
2016年 九州大学ビジネススクール修了

博多織製織技術の伝承を目的とした「博多織デベロップメントカレッジ」卒業後、現在は同校で実技・意匠指導を担当する他、紗や紹等振り織帯の制作活動も行う。2019年4月からは九州産業大学伝統みらい研究センターにて九州一円の工芸品調査研究に従事する予定。
右作品「水面に華サクラ」は、博多織の代名詞とも言える「献上柄」で用いる「独鉗」と「華皿」をベースに、水面に浮かぶ桜をあしらった変わり献上の博多織帯である。



題字・箱島信一書
発行 修猷館同窓会
東京支部事務局
〒185-0034
東京都国分寺市光町 2-14-85
(有) パルティール内
FAX 042-573-5060
東京修猷会ホームページアドレス
<https://www.shuyu.gr.jp/ky/>

新しい時代を迎えるにあたって



東京修猷会会長
伊藤 哲朗
(昭和42年卒)

新年明けましておめでとうございます。

昨年6月に大須賀頼彦会長の後を受けて東京修猷会の会長を拝命致しました伊藤哲朗(昭和42年卒)です。皆様もご家族共々清々しい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

今年が平成最後の年です。新年を迎えるにあたり、その年がその元号の最後の年であることが予め分かって新年を迎えるのは何か不思議な気がします。今年が、年が変わるだけでなく、平成の時代から新しい元号の時代となる時代の変り目の年でもあるのだと思います。

平成の30年余りを振り返るとき、様々なことがありましたが、なかでも特徴的なことは、昭和の時代と比べても阪神淡路大震災や東日本大震災をはじめ地震、風水害や火山の噴火など災害が多く発生した時代でもありました。私はこの間、警察や内閣などで災害対応に当たったほか、その後は大学で災害対応をはじめ危機管理についての研究を行ってきました。

災害に関して言えることは、東日本大震災以降、我が国は今や地震の多発期に入っており、その後の30年の間に、マグニチュード7.5クラスの地震が多数発生するほか火山の爆発が多発すること、特に首都直下地震や南海トラフでの地震の発生は70パーセント以上の大きな確率で発生することが予想されること、また、近年の地球温暖化の影響もあり、台風をはじめとする風水害の被害は、これまで以上に頻発し大きなものとなるであろうことです。平成の時代は、災害が多かったと申し上げましたが、次の時代もまた、平成に劣らず災害の危険も多くなると考えられます。

私は、首都直下地震などの危険が迫る中、予想される首都直下地震やその他の災害に備えて東日本大震災以降どのような対策をとっているかを、いろいろな機会をとりながら各年齢層の方々にお尋ねしてきました。ところが、こうした危険の切迫をほとんどの方が認識されていますが、危険に備えて何らかの具体的な対策をとっておられる

方は実に少ないのです。ほとんどの方が「特に何もしてない」と回答されています。東京修猷会の皆様は、首都直下地震や大災害の危険が高まる中、どのような対策をとられているのでしょうか。「特に何もしてない」という答えが少ないことを願うばかりです。

多くの人が予想される災害を認識しながらなぜ対策を取ろうとしないのか。その理由の多くは、災害は来るかもしれないが、「すぐには来ないだろう」、「来てもたいしたことはないだろう」、「自分だけは何とか大丈夫だろう」というものです。基本的に言えることは、多くの人が危険は認識しつつも「明日も今日と同じ穏やかな日が続くだろう」と何となく思っているところにその原因があります。心理学ではこれを正常性バイアスと言うそうです。いわば、多くの様々な危険が叫ばれながら多くの人がその危険を切実なものと考えないところに、危機の本質が潜んでいます。迫りくる危機に対して危機意識を持たないことこそが危機の本質だと言えます。

危機意識が希薄だと危機に対する備えが十分でなくなるのは当然のことです。よく「備えあれば憂いなし」と言われますが、しかし、現実の多くは「憂いなければ備えなし」というのが実情なのです。これは災害に限らずその他の多くの危機についても言えることです。大きくは我が国を取り巻く様々な国家の危機から、一人一人の身近な危機まで、「憂いなければ備えなし」となっていないか考えてみることも重要です。

平成という時代が終わりに新しい時代に入ろうとするとき、次の時代が災害などの様々な危機に対して抵抗力を備えた時代となるようにしていくことが重要です。危機への対策には様々なものがありますが、いずれも費用と時間がかかるものばかりとも言えます。しかし、いったん危機の被害をまともに受けてしまえば、人的被害はもとより回復するための費用や時間は、危機に備えるための費用や時間に比べれば何十倍、何百倍にもなることは明らかです。つまり、危機に備えることは、コストではなく、被害を受けないあるいは被害を小さくするためにバリューを高めることなのです。

新しい時代が、災害があっても被害の少ない時代となるようにすることは、現代の科学技術をもってすればそれほど難しいことはありません。それには、まず危機への備えを意識し、そして実行に移すことです。東京修猷会の皆さんが職場や家庭で率先して行動し、「備えあれば憂いなし」の時代にするよう先頭に立つことを心から願わずにはいられません。

東京修猷会2019年 活動スケジュール

- 1月 元旦 会報発行 (全会員に発行)
- 2月 10日(木)二木会 於：学士会館
- 3月 14日(木)二木会 於：学士会館
- 4月 28日(木)春期常任幹事会
- 4月 11日(木)二木会(新人歓迎会) 於：学士会館
- 5月 14日(日)二木会ゴルフコンペ
- 6月 9日(木)二木会 於：学士会館
- 7日(金) 総会
テーマ「新時代へ つなGO 修猷の輪」
於：ハイアットリージェンシー東京 クリスタルルーム
- 7月 11日(木)二木会 於：学士会館
- 9月 7日(土)サロン・ド・修猷 於：学士会館
- 10月 未定 二木会ゴルフコンペ 於：学士会館
- 10月 10日(木)二木会 於：学士会館
- 11月 24日(木)秋期常任幹事会
- 12月 14日(木)二木会 於：学士会館
- 12月 12日(木)二木会忘年会 於：未定

平成から新しい時代へ
新副会長対談

新副会長の二人に修猷館時代、昭和、そして平成を振り返り、新しい時代に臨む東京修猷会へメッセージをいただきました。



等健次 副会長
大興製紙(株) 会長

加藤純一 副会長
株式会社ファイナンシャルグループ 執行役専務

化祭も山のように仕事がある、それぞれ責任者を集めました。まさに皆さんが仰る通りで、それぞれの責任者に任せてやってみよう、もう自然とそれで回って行くんですね。もう一つ思ったのは、修猷館のいいところって、先生が生徒に任せてくれましたよね。逆に任せられているが故の規律のようなものがあり、「則を越えず」みたいな意識を持ちながらやっていた部分はあります。あの文化祭の運営委員長をやったのは、その後いろいろなことに役立つという気は私もあります。

平成という時代の波

修猷時代の等健次副会長(昭和45年卒)修猷の思い出と言えば、運動会、文化祭、部活動。私は合唱部の部長でしたが、運動会ではブロック長を務めました。ピラミッド、騎馬戦、スタンダード作りなどをみんなに振り分ける。組織を作り組織によって実行する、その組織力がすごい。それを非常に感じたんです。担当者各人が、自分の責任をきちっと果たすと同時に、全体はどうなっているかということも頭の中に入れて動いているからうまくいく。ハプニングが起こるけど、それはすぐ隣の責任者と話して解決して進んで行く。そういう能力は、どこも教えてくれない。それは自然に修猷館の3年間でみんなが培った文化、お互いに信用し、自分自身も自信を持って自分の仕事をやる。そういうことができるのが修猷生かな。

加藤純一副会長(昭和51年卒)やっぱり似たような経験をされていますね。私は、文化祭の運営委員長をやりました。文

行つた所を嫌いになったら仕事にならないですよ。その町を好きになる、そこにいる人たちを好きになることです。加藤 今与えられているアサインメントを120%やること。例えば、コピーをとるよう言われた時、きちんとコピーをとって返す。でも、もつと言え、コピーをとれと言われたら、君、その書類読んでもいいと言われたことと一緒に。コピーをとっている間にその書類を読んで内容を理解しながら、コピーをとったことを他の仕事に活かす。そこまでできなかったらすごい。上司の立場なら、「ネーコピーですか」と言う者と、内容を読んで、「あの時のことですね」と言う者と、どっちに次の仕事を与えたいと思うか。今与えられている仕事に120%力を発揮することが、実は次のステップに對してもものすごく大事。

これからの東京修猷会

等 大きくすると言うよりも、先輩後輩、縦のつながりを作れたらいいかなと思います。それと、団塊の世代が増え、その人たちが出不精になってくる。そういう人たちができただけ呼び寄せることも考えていきたい。加藤 出合いの場を多く。今日等さんのお話を伺っていて、「そうだな」とか、「あつそうなんだ」と思うことが私自身あつて、そういうお話を先輩方から実はあまりまだ聞けてないかなと思いました。こうした機会を作ること、自然発生的に、「おもしろいな。じゃあちょっと一緒にやってみよう」とか、「みたいになつていくと、会が長続きすると思います。

「広げよう”Shuyu”の輪」

実行委員長 宮崎 真二(平成4年卒朋猷会)

平成30年度東京修猷会総会が同年6月8日(金)に「ハイアットリージェンシー東京」にて、盛大に開催されました。

第一部の「総会」では、大須賀会長(総会当時)による挨拶、伊藤新会長、等新副会長、加藤新副会長のご紹介、



総会での集合写真

宮川相談役(昭和12年卒)のご紹介が行われ、その後、修猷館同窓会の川崎会長、高島新館長からご挨拶を頂戴しました。また、松尾幹事長から前年度の事業報告、会計報告が行われました。

第二部の「恩師紹介」では、幹事学年がお世話になった稲富広先生に福岡からお越しいただき、当時の思い出を語っていただくとともに、私共へのメッセージも頂戴しました。第三部の「懇親会」は、会長に就任された伊藤会長のご挨拶と乾杯のご発声により始まり、歓談後、「映像企画」として、スポーツ、芸能、文化等の分野で活躍の館友を映像で紹介する「こんなところに修猷生」を上映いたしました。司会や出演者の登壇により会

これぞ修猷のパワー!!

鶴田 秀典(昭和37年卒)

「今年は、同期の大須賀が会長としての最後の総会らしいかい!! 集まろうや!!」と声を掛け合ったからか、37名はいつもよりはるかに多い11名の出席となりました。懇親会では、椅子席が用意され、幹事学年から最高のおもてなしを受けたのです。我々よりも若い世代は立食で、「申し訳ない!」と思いつつも夢心地。しかし、よく考えて見ると「これって老人扱いではないか!喜んでばかりはいられない!!」と、やおろその話を求めて動きまわり、スツカリ修猷時代の気分が浸り談

また、例年、幹事学年が知恵を絞って、修猷現役の運動会上と思える情熱とエネルギーをぶつけて作り上げる、独自の出し物が出色です。今年「こんなところに修猷生」との題目での手作り映像で、お笑い雑誌で表紙を飾るタレント、コマーシャルで活躍中の大學生、あるいはミス東大や博多職人、陶芸家等の活動状況を、会場での進行が元オリピック選手であるなど、卒業生の層の厚さ、幅広さ、有能で多岐にわたるビジュアルとなり心に伝わりました。一生に一度回って来る幹事



修猷37会
平成30年度総会出席者

東京修猷会 2019 年度総会のご案内

テーマ:「新時代へ つなGO 修猷の輪 ~ 始める 深める 修猷活 ~」

2019年6月7日(金)18:00~ ホテルハイアットリージェンシー東京 クリスタルルーム

【学年企画 動画募集】映像企画『新時代につなぐ 六光星リレー 280 里行軍』では、映像で福岡から東京までを繋ぐため、館友の皆様のスマホ動画(リレーや応援約8秒)を募集しております。

問合せ連絡先 kikaku.goyukai@gmail.com (企画担当 大場)

QRコードからどうぞ



6.7

今年は第1金曜日

'19

幹事学年
GO 猷会(平成5年卒)

RWCはメディアだ

ノンフィクション作家 松瀬学(昭和54年卒)

ラグビーはメディアだ。

もう40年余も経つのか。修猷に入社した際、僕ら1年生は体育館に集められた。運動部の説明会だった。3年生のラグビー部員が壇上で楕円球を右手で持ち上げた。「これ何のボールか知ってるや?」

このボールは青春を豊かにしてくれる。人生同様、右に左に転んでいく。楕円球を通じ、友だちの輪が広がっていく。たしか、そんなことを先輩はたまっていたのである。ラグビー部に入ったのが運動の尽きだった。修猷では砂場のごとき校庭でビフテキ(重度の擦り傷)をつくり、早大では星空をみながらグラウンドをぐるぐる回った。つらかったけれど、友達は山ほどできた。世界が広がった。

僕は、ラグビーによって生かされてきた。先輩から「ならば、ラグビー界に恩返しを」と迫られた。酔った勢いで、ヨッシャとラグビーワールドカップ(RWC)組織委員会に入った。1年半、広報戦略として機運醸成のため、全国、いや世界を飛び回った。

僕は、RWCを1987年の第1回大会からすべて取材してきた。知らない海外のおっさんから幾度もビールをご馳走になってきた。世界中の人とつながりができた。

RWCは4年に一度の世界一決定戦である。多様なラグビー文化が激突する。ラグーマンはRWCに夢を見る。前回大会で大活躍した元日本代表のエース、早大の後輩

の五郎丸歩くんは僕にこう、漏らしたことがある。「まだ、なんだか、日本でやるのは信じられないんです」と。そりゃそうだ。僕だって、信じられない。ラグビーの伝統国以外、アジアで初めてとなるRWCである。世界のラグビー界にとっては極めてチャレンジングな大会となる。実はRWC招致運動は、2003年11月にイラクで凶弾に倒れた外交官の奥克彦さん(享年45)が、森喜朗総理(当時)に直談判して始まる。RWC2011年大会の招致に失敗し、2009年、ついに2019年大会の招致に成功した。RWC組織委員会はざっと180人体制で日々準備を進め、大会ボランティアは約1万人を計画している。観客見込みが約180万人。RWCを通じ、世界の人々がつながるのだ。RWCもまた、メディアなのだろう。さあ、一生に一度のお祭りがやってくる。ああ修猷健児の血が騒ぐ。



松瀬学

長崎県生まれ。早稲田大学ではラグビー部に所属。83年、共同通信社に入社。02年に同社退社後、ノンフィクション作家に。日本文藝家協会会員。元RWC広報戦略長。現・日本体育大学准教授。著書は「汚れた金メダル」中国ドレーピング疑惑を追う「スクラム」など多数。

館友時評 2019ラグビーワールドカップ特集

運動会と部活動です。運動会では、3年時に騎馬長を務めました。決勝戦まで進んで、みんなで思い切り元寇を歌ったのが一番の思い出です。ラグビー部の思い出は、鹿児島での夏合宿の時、みんなで泊まって楽しく過ごしたり、たくさん練習や試合を重ねたりする中で、人としてもプレイヤー自体も成長したことです。修猷在学中に、クラスメイトにも先生方にも迷惑をかけた分、修猷館の名に恥じないよう、勉強もラグビーもがんばって、日々精進したいと思えます。座石の銘は「急がば回れ」です。理由は、目標を立てて、それに向かっ

ラグビーワールドカップを目指して

早稲田大学ラグビー蹴球部 下川 甲嗣(平成29年卒)

ラグビーを始めたきっかけ

私は今、早稲田大学に在学して、ラグビー蹴球部に所属しています。ラグビーを始めたきっかけは、兄です。兄の練習についていく中で、気づいたら自然に自分もラグビーをしていくという感じでした。4歳の頃でした。早稲田に入るうと思っただけ、小さい頃から大学自体に憧れていたこともあり、日本一になるための最高の環境とコーチングがそろっていたので、ここに決めました。

尊敬する人は、両親です。僕は三兄弟なのですが、兄も姉もそれぞれ自分の芯が通っていて、尊敬できる兄弟です。兄や姉をそのように育て上げた両親を尊敬しています。運動会と部活動です。運動会では、3年時に騎馬長を務めました。決勝戦まで進んで、みんなで思い切り元寇を歌ったのが一番の思い出です。ラグビー部の思い出は、鹿児島での夏合宿の時、みんなで泊まって楽しく過ごしたり、たくさん練習や試合を重ねたりする中で、人としてもプレイヤー自体も成長したことです。修猷在学中に、クラスメイトにも先生方にも迷惑をかけた分、修猷館の名に恥じないよう、勉強もラグビーもがんばって、日々精進したいと思えます。座石の銘は「急がば回れ」です。理由は、目標を立てて、それに向かっ

て努力していく上で、目の前のことをしっかりやっていたいかなというところが、この19年間、いろいろ体験して分かった。この言葉をこれからも大切にしていきたいと思えます。今までの遠征には、自分が今までやってきたことが世界で通用するかと、この19年間、いろいろ体験して分かった。この言葉をこれからも大切にしていきたいと思えます。今までの遠征には、自分が今までやってきたことが世界で通用するかと、この19年間、いろいろ体験して分かった。この言葉をこれからも大切にしていきたいと思えます。



下川 甲嗣

4歳の時にラグビーを始める。修猷卒業後、憧れの早稲田大学ラグビー蹴球部に入部。1年生からNo.8やロックで活躍。U20日本代表にも選出された日本ラグビーの将来を担う期待の逸材。

第12回を迎えた今回のサロン・ド・修猷は、「人生100年時代をどう生きるか?」をテーマに9月8日に学士会館にて開催されました。

第一部の講演は、WEBメディアでご活躍の米田智彦さん(平成33年卒)による「新しい時代の生き方と働き方」。トリードマークのハットが「平成の寅さん」を彷彿とさせる米田さん。様々なキャリアの積み重ねと「セレンディピティ」(偶然の出会い)をポジティブに受け入れ、時代の変化にしっかりと対応しながら新しい生き方や働き方を実践してこられたようで、ユニークでとても興味深いお話をお伺いすることが出来ました。

今回は昼食に学士会館でも人気の松花堂弁当を温かいお椀と共に楽しめました。また、博多を感じておもてなしを、ふくやの明太子と辛子高菜、さらにお代わり用の炊きたてご飯もご用意し、皆さまにとっても喜んでいただきました。今回は昼食に学士会館でも人気の松花堂弁当を温かいお椀と共に楽しめました。また、博多を感じておもてなしを、ふくやの明太子と辛子高菜、さらにお代わり用の炊きたてご飯もご用意し、皆さまにとっても喜んでいただきました。

我々修猷会が東京修猷会にて幹事を務めるイベントが終了いたしました。これまでのご支援並びにご協力に心から感謝を申し上げます。(平成33年卒 讚猷会)

休憩後の第二部は、太極拳インストラクターでもある清水御冬さん(平成元年卒)による「扇の舞」からスタート。「不老長寿のカラダ作り」と題した講演では、老いは足元からやってくることで、太極拳は足腰の鍛錬にとっても良いことを分かりやすくご指導くださいました。簡単な気功や太極拳のポーズなど体を動かしながらの講演は、とても実践的だと大変好評でした。終了後、讚猷会が幹事を務めた東京修猷会のコーラス企画「つむぎ星よ」を合唱し、修猷愛を再確認しつつ閉会となりました。



第一部講師・米田智彦さん



第二部講師・清水御冬さん

Salon de 修猷 第12回 「人生100年時代をどう生きるか?」

今回は昼食に学士会館でも人気の松花堂弁当を温かいお椀と共に楽しめました。また、博多を感じておもてなしを、ふくやの明太子と辛子高菜、さらにお代わり用の炊きたてご飯もご用意し、皆さまにとっても喜んでいただきました。今回は昼食に学士会館でも人気の松花堂弁当を温かいお椀と共に楽しめました。また、博多を感じておもてなしを、ふくやの明太子と辛子高菜、さらにお代わり用の炊きたてご飯もご用意し、皆さまにとっても喜んでいただきました。

我々修猷会が東京修猷会にて幹事を務めるイベントが終了いたしました。これまでのご支援並びにご協力に心から感謝を申し上げます。(平成33年卒 讚猷会)

休憩後の第二部は、太極拳インストラクターでもある清水御冬さん(平成元年卒)による「扇の舞」からスタート。「不老長寿のカラダ作り」と題した講演では、老いは足元からやってくることで、太極拳は足腰の鍛錬にとっても良いことを分かりやすくご指導くださいました。簡単な気功や太極拳のポーズなど体を動かしながらの講演は、とても実践的だと大変好評でした。終了後、讚猷会が幹事を務めた東京修猷会のコーラス企画「つむぎ星よ」を合唱し、修猷愛を再確認しつつ閉会となりました。

第42回東京修猷会 二木会ゴルフコンペ

平成30年9月17日(月)祝

第42回二木会ゴルフコンペ

が、松本陸彦さん(昭和39年卒)のご厚意により、千葉県「山武グリーンカントリー倶楽部」にて開催されました。当日は二木会コンペには珍しく快晴に恵まれ、素晴らしいゴルフ日和となりました。参加者は昭和37年卒の大須賀頼彦前会長から平成28年卒の安原優典さんまで、女性9名、初参加6名を含む12組46名の皆様に参加いただきました。また昭和卒と平成卒が半数ずつ23名となり、時代を感じるコンペとなりました。栄えある優勝は岡田知子さん(昭和45年卒)、準優勝は梶栗健吾さん(平成元年卒)、3位は篠田真さん(昭和58年卒)と

今回は昼食に学士会館でも人気の松花堂弁当を温かいお椀と共に楽しめました。また、博多を感じておもてなしを、ふくやの明太子と辛子高菜、さらにお代わり用の炊きたてご飯もご用意し、皆さまにとっても喜んでいただきました。今回は昼食に学士会館でも人気の松花堂弁当を温かいお椀と共に楽しめました。また、博多を感じておもてなしを、ふくやの明太子と辛子高菜、さらにお代わり用の炊きたてご飯もご用意し、皆さまにとっても喜んでいただきました。

我々修猷会が東京修猷会にて幹事を務めるイベントが終了いたしました。これまでのご支援並びにご協力に心から感謝を申し上げます。(平成33年卒 讚猷会)

休憩後の第二部は、太極拳インストラクターでもある清水御冬さん(平成元年卒)による「扇の舞」からスタート。「不老長寿のカラダ作り」と題した講演では、老いは足元からやってくることで、太極拳は足腰の鍛錬にとっても良いことを分かりやすくご指導くださいました。簡単な気功や太極拳のポーズなど体を動かしながらの講演は、とても実践的だと大変好評でした。終了後、讚猷会が幹事を務めた東京修猷会のコーラス企画「つむぎ星よ」を合唱し、修猷愛を再確認しつつ閉会となりました。



二木会ゴルフ幹事 永井光二

2018年 二木会	
第634回 H30.1	『負けじ魂~北京オリンピックスタジアムの屋根材等を勝ち取ってきた戦略と覚悟~』 庄野直之氏(昭和50年卒) 中興化成工業(株) 代表取締役社長
第635回 H30.2	『人の心をとらえるありがとうの習慣』 堤信子氏(昭和56年卒) ㈱ノートルメルシー 代表取締役社長
第636回 H30.3	『人生の終末期をどう生きる?~逝く人に学ぶ』 後藤勝彌氏(昭和35年卒) 大田記念病院 名誉院長
第637回 H30.4	『自動運転って何?その時代の社会はどう変わる?』 井上友二氏(昭和42年卒) ㈱トヨタIT開発センター 顧問
第638回 H30.5	『週刊ダイヤモンドが組んだ高校特集(2016年11月19日号)の裏側』 田中博氏(昭和59年卒) リコー経済社会研究所 客員主任研究員
第639回 H30.7	『金融サービスの新しいカタチ・FinTech(フィンテック)~福岡発×地方銀行初 FinTechベンチャーの挑戦~』 永吉健一氏(平成3年卒) iBankマーケティング㈱ 代表取締役
第640回 H30.9	Salon de 修猷「人生100年時代をどう生きるか?」 第一部『新しい時代の生き方と働き方』 米田智彦氏(平成33年卒) ㈱シー・エス・エス・メディア 代表取締役
第641回 H30.10	第二部『不老長寿のカラダ作り』 清水御冬氏(平成元年卒) 天空メディア(同) 代表
第642回 H30.11	『テレビ政治からネット政治へ?~どうなるどうする日本政治~』 逢坂巖氏(昭和59年卒) 駒澤大学法学部政治学科 准教授
H30.12	『ラグビーワールドカップ2019開催に向けた現況と展望~日本で世界大会が開催される意義~』 田中啓太氏(平成13年卒) 公益財団法人ラグビーワールドカップ2019組織委員会チケットティング部主任
忘年会 ※肩書き、所属は講演時のもの	

☆二木会の講演は6月・8月・9月・12月を除く毎月第2木曜夜に学士会館で開催しています。講演前に講師との食事会、講演後には懇親会を行い、館友同士の交流も盛んです。☆9月は「Salon de 修猷」として土曜の日に開催。☆12月は忘年会のため、講演はなく別会場となります。

生

昨年の東京修猷会総会の映像企画『こんなところに修猷生』。「質朴剛健」、「不羈独立」、「自由闊達」という修猷の教えをまさに実践し、様々な分野で活躍している館友の皆様にご協力いただき、好評を得ました。新たなメンバーも含め、いま、ここに会報版として復活!!

芸能界での活動を仕事にする

井桁弘恵(平成27年卒)



私はいま、早稲田大学に通いながら、芸能活動をしています。先日、「ゼクシィ」(雑誌)のCMガールになりました。「ゼクシィ」のCMガールになつて大きく変わったことは、この仕事に対する意識だと思います。この仕事が決まった

外はかすり傷」です。私はネガティブで何事も悪いほうに考えがちなので、この言葉をテレビで聞いたときにはハッとしました。すごく大事な考え方だなと思ひ、それ以来、私の座右の銘になりました。将来は、たくさんの人に愛される女優になりたいと思ひます。



これからもずっと……

陶芸家 高取七絵(昭和57年卒)



私は、四百年続いている高取焼宗家で、主人や息子と一緒に作陶をしています。修猷では、あまり勉強をせず、大らかに過ごしています。高校3年のクラスがとて

強く思いました。だから、今のうちにできることはやってほしい、会える人には会ってほしいです。被災した当初は何から手をつけていいかわからず、本当に打ちひしがれていました。館友やボランティアの方など、たくさんの方に助けられて、少しずつ村も心も復興してきました。これからもずっと、ものづくりを続けていけたらと思ひます。流木に襲われて窯が土砂に埋まり、本当に辛い目に遭いましたが、その流木を使って焼き物も焼きました。一番やりたいことは、村を元に戻すというよりは、前よりももっと住みやすくすることです。ピンチをチャンスに変えて、いい方向に向かえたらと思ひます。

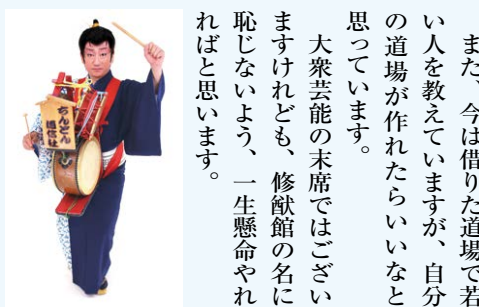


大阪でちんどん屋として……

ちんどん屋 林幸治郎(昭和50年卒)

私は、大阪でちんどん屋の事務所をやっております。ちんどん屋の広告宣伝から転じて、芸能全般のことや、テレビ番組の制作などもやっております。商店街育ちだったので、そういう空気が幼い頃から身体に染みついているので、そこに

修猷館での思い出は、勉強もきつかったし、体育もきつかったことです。体育は、有名な白木先生に当たたらどうしようと思ひていましたが、奥田先生という柔道の先生になったのでホッとしたことを覚えております。尊敬する人は、芸能の原点



スタンドのバックをきっかけに

COACH 相原浩之(平成元年卒)

私は、COACHという会社で、ウイメンズウェアのパターナーとして働いています。修猷での思い出は、3年生

の時の運動会で、スタンドのバックを描いたことです。バックブロックだけ美術部員が居らず、絵を描くことだけは好きだった私が、美術の先生に勧められたのがきっかけです。ただ、僕は極度のあがり症で、人前で話すことなど、とてもできそうにありませんでした。そこで、友人にバック長になつてもらい、自分は陰に隠れてコッソリ絵を描いていました。あの巨大な絵を描



を研究された小沢昭一さんと親父です。座右の銘は、うちの親父がよく言っておりました「至誠通天」です。「志を強く持つていたら、必ず天に通じる」ということだと思ひます。これからは、芸能とは何ぞやということをも根本的に見詰め直すというのをしっかりとやっていきたいと思ひております。

また、今は借りた道場で若い人を教えていますが、自分の道場が作れたらいいなと思ひております。大衆芸能の末席ではございますけれども、修猷館の名に恥じないよう、一生懸命やればと思ひます。

平成修猷会

森光太郎(平成3年卒)

約8年前、平成卒の同窓生が集まる「平成修猷会」を立ち上げました。この会を作ったのは、総会や二木会などで大先輩とお話しする機会が多いのですが、同世代や自分より若い世代と話をすることが少なく、良い場はないかと思ひたのがきっかけです。私が平成3年卒ということもあり、平成でくつしまえは若い方々と接することができ、という自分の都合でしたが、

実は皆同じことを考えていたのか(？)すぐに人が集まり、現在は総勢200名に膨れ上



がりました。同世代で仕事の話をするのもよし、友達になるのもよし、恋愛に発展してもいいという緩い会ですが、お陰様で今も何とか活動しています。気付けば私もベテラン勢の仲間入りですが、平成が今年終わるのは一つの区切りであり、今後は平成の30年間世代でやっつけようと思ひつつ、次の世代でも新しい会ができればと期待しています。

「ばかちゃん会」

坂原祐樹(昭和57年卒)

六光星のイラストデータを後輩につなぐことから生まれ

「ばかちゃん紅白歌合戦」「ばかちゃんスター誕生」「東京パカチンピック」が開催されました。その中で、ピンクマツヤレデイス、山本リンダアイコ、妖怪人間クリス、パーモンドヒデキ、ザ・マーガリンなど数多



この「ばかちゃん会」は、アートや建築に親しむ文化芸術の一面がある一方、己のパカチン度にチャレンジするお祭りの一面があります。今までに「松田聖子祭り」「



こんなところに

修猷

猷シユランが ひろげた繋がり

ハワイアンバー Waitale
藤田 理恵(平成10年卒)

初めましての方あてに、まずは自己紹介を。
平成10年卒の藤田(旧姓速水) 理恵と申します。在校時は弓道部に所属。現在は、渋谷にある『Waitale(ワイレレ)』を夫婦で営んでいます。

『Waitale』は、ハワイをメインに、アメリカのクラフトビールを扱うビールバーです。6種の樽生ビール、80種類のボトルビールと、ビールに合うフードメニューを揃えています。

『猷シユランガイド』には、福島直央さん(日10卒)の紹介で載せていただきました。
上京後10年以上経つものの、東京修猷会には参加したことがなく、幹事学年が毎年

「人生の波」に乗る

明治大学教授 諸富 祥彦
(昭和57年卒)

良い人生を生きている人に共通の特徴は何か。真の幸福を手に入れ、成功のうちに人生で道を進んでいく人に共通の特徴は何か。

それは、「人生の波」に乗ることができている、という特徴である。心理学ではこれをパワー・オブ・フローと呼ぶ。チクセントミハイというハンガリー出身の心理学者が提示した概念である。

例えば野球やアメリカンフットボールなどのスポーツの試合を見てもわかるように、波に乗っているチームはどこか

趣向を凝らした企画をしている、ということも初耳でした。先輩方にはお忙しい中、お店まで取材にも来ていただき、完成版を拜見するのを楽しみにしていました。

そんな中、廣崎洋平さん(日8卒) がガイド片手に来店。ビール関連のお仕事をされていて、ガイドきっかけでお店に来てくれたとのこと。話してみると、2歳上の姉(速水真理)と同学年ということが判明した、まさにそのタイミングで、姉と父が来店。父も卒業生(速水洋/S39卒)だったこともあり、偶然の驚きに満ちた、プチ同窓会の時間が流れました。

その後も昭和49年、昭和35年卒の方に来ていただけたり、同じ掲載店として、「シフレ」の武井さん、「清武」の湯浅さんと出会えたり。
猷シユランガイドのお陰で、

違う。人生の勝ち時を知っており、ここで行くべきだと判断した時にはとことん行く。「このチームは波に乗っていますね」と解説者が表現するような瞬間だ。逆に実力はあるのにいまひとつ勝利を得ることができないチームは、行くべき時になかなか行けない。周囲から見ていると、歯がゆくなることもあるほどだ。

人生も同じである。ここは勝負という時にとことん突き進むことができないと、仕事も恋も学業もうまくはいかない。「今はまだ違う」と思っている。『もう少し様子を見よう』と、「これが実力はあるのに、人生がいまひとつぱっとしない人の口癖だ。つまりは思い切りが悪いのだ。」

「こーだー」と思ったら思い切りよく、とことん、人生のアクセルを踏み込むことができる。これが人生の勝利を引き寄せるための鉄則なのである。



もしあなたの人生が今「その時」に達しているとしたら。今こそ自分自身の内なる直感を信じ、自分の人生に「イエス」と叫んで、思い切りアクセルを踏み込む時だ。修猷出身のあなたにならできるはずだ。



総会で配られたガイド



同級生や部活以外の「年代を飛び越えた新たな繋がり」のきっかけをいただいたことを有り難く感じています。
自分達のお店も、猷シユランガイドのような、新たなつながりのきっかけの場になれたらな、という想いを持ちつつ、まだ出会っていない皆様にもいつかお会いできることを楽しみにしております。

冒険家として...

登山家 栗秋 正寿
(平成3年卒)

私は、一般的には登山家、広く言えば冒険家です。日本にいたときは、物を書いたり、講演したりいろいろなことをしています。

修猷館での一番の思い出は、山岳部での、重い荷物を背負って山に登る「歩荷訓練」というトレーニングです。高校2年の第三回の歩荷訓練で、51キロの荷物をつくって、当時の自分の体重と同じくらいの重りを担いで、若杉山、三郡山、宝満山縦走をしました。その時、ものすごく大変な消耗をした記憶がありますが、それ以降、それよりきつい経験をすることはありません。



冬のアラスカ登山よりも、高校2年の経験の方がきつかったです。
冬のアラスカの極地を、合計18回登りました。合計で約2年、ほぼ一人で山の中に籠って滞在していました。大変危険な世界で、毎回充分に準備をし、挑戦して戻ってくる中でつくづく思うことは「命はひとつしかない」ということです。かけがえのない命です。ので、みなさん、どうぞひとつしかない命を大切にしてください。と思っています。

実行委員長の会

小林 大輔(昭和57年卒)

この会は平成20年、不肖私がかんとか実行委員長を務めた終えた年に始まりました。きっかけは次の実行委員長が部活の後輩だったことから「じゃあ酒でも飲みながらざっくばらんに話そう」という極めてユルいものでした。

また「更に次の委員長も決まってるらしい」と聞き、3人で人形町で酒を酌み交わしたのが始まりです。その後1学年ずつ増えてゆき、途中から女性も加わり、今ではすっかり大所帯になり楽しくやっています。しかしそこは「実行委員長の会」。しっかりと総会の成功を見据えることを忘れてはいません。会の終わりに先輩委員長らが次期委員長

突然の和牛の会

南部 芳子(平成9年卒)

先日、平成9年卒の竹野と南部が発起人となり、平成17年卒の村上くんが店長を務める、銀座の肉バル「ランブキヤツ」で、学年横断的な暑気払いとして、『和牛の会』を開催させていただきました。

平成3年卒から平成17年卒まで、様々な学年の館友が19名集まり、8月生まれの方の誕生日を祝ったり、再会を喜んだり、先輩からの素敵なプレゼントをいただいたり、美味しいお肉をいただきながら、思い思いの楽しみ方で会は大いに盛り上がりました。

開催のきっかけは、突然南部のLINEに村上くんから送られてきた、お店のブランド和牛フェアの開催案内。せつ



かくなら、みんなです！ということ、声をかけ始めたところから。この日は、A5ランクの松阪牛に舌鼓を打ちながら、参集した館友が学年を超えた交流をもつ、最高の夜となりました。南部&竹野のW幹事で不定期に飲み会を開催しておりますので、次回は是非ご参加ください。



らに、それぞれの想いを熱く泥臭く語り、エールを送ります。幹事学年に惜しみなく協力することを約束します。そして総会幹事を無事に果たした彼らが次回この会を仕切るのですが、前回先輩に激励された彼らが、今度は後輩を激励する姿を見るとき「この会を立ち上げてよかったな」と胸が熱くなるのです。

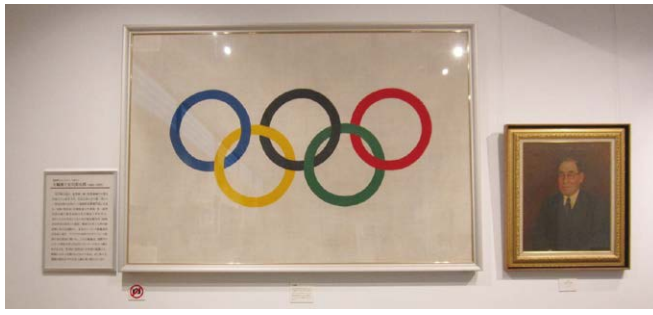
福岡で輝く、東京五輪の旗

いよいよ来年に迫った2020東京オリンピック。次第に国内の機運が高まる中、修猷資料館に展示されている五輪旗が再び注目を集めている。

この五輪旗は、1964年夏、東京オリンピックのメイン会場であった国立競技場に掲揚されていたもので、見事な大会運営に感動したIOC会長からIOCを経由して、オリンピックの大会組織委員会会長を務めた安川第五郎氏(修猷館OB)に贈られた。オリンピックの成功を象徴するこの貴重な五輪旗は、その後、安川氏の手によって母校である修猷館高校に寄贈されたのだが、そこには安川氏の母校に対する「修猷愛」があった。



寄贈の五輪旗と安川会長を中心に同窓会幹部
出典：「聖火」安川第五郎 著



2020東京オリンピック パラリンピック特集

アジア地域で初めて開催されるオリンピックの最高責任者としての任務は、様々な業績を誇る安川氏をもってしてもかなりの重圧であった。

今号では、オリンピック・パラリンピックと深く関わりをもつ館友について特集した。

オリンピックに出場して

北京五輪 ヨット日本代表 一石橋頭(平成4年卒)

25歳で脱サラ、無職、結婚、2度のオリンピック代表選考敗退、挫折、34歳で日本代表、当時オリンピックを目指した約10年間の軌跡です。

世界の選手達は年間約半年以上を国際レースで欧州、米豪などを転戦して回ります。その為選手の活動費は年間数千円から5万くらいでしょうか。

しかし当時の私と云えば、「世界で勝負したい」という強い思いと勢いだけで無職になり募金Tシャツの販売とスポンサー集め、後援会企業集めなどレースと練習の合間に資金集めに奔走する日々を送っていました。(当時同窓会からも多大なる寄付金をいただき感謝しております。)

最終的には10年間で寄付金、Tシャツの売上など合計1億円以上の資金が集まり無職10年を経て奇跡的にオリンピック代表となる事になりました。

私は、修猷館を出て、東京の大学に行き、巴工業という会社に就職しました。ヨットで東京オリンピック、ドラゴン級のチームリーダーに選ばれ、日本代表に決まりました。11人中6人が巴工業から選ばれ、出場することができました。

修猷館に入ったのは昭和19年、太平洋戦争の末期でした。2年生になると鐘紡の軍需工場へ勤労動員に行きました。戦争が終わり、学校へ戻りましたが、食料がほとんどなく、

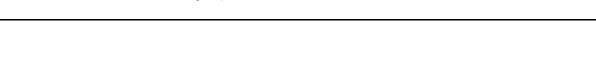
来年、東京オリンピックが開幕されます。当然ながらオリンピック本番しか見る事は出来ません。しかし全ての選手に全てのストーリーがあります。その一瞬の為にどれ程の想いで努力し続けてきたのか、サポーターとの関わりやチームとしての苦労や困難など様々なドラマがあるはず。背景を知って応援したいですし、ストーリーからファンになれば結果に関わらず長く深く応援し続けるに違いありません。

そんなファンが一人でも多く応援してくれる事を心から願っています。

「天下の修猷館」の、質朴剛健なところが好きです。現役の方は、成績が一番だと思いますが、運動の方もがんばって全国でも活躍してほしいと思います。

私(天下の修猷館)の、質朴剛健なところが好きです。現役の方は、成績が一番だと思いますが、運動の方もがんばって全国でも活躍してほしいと思います。

2019年にはラグビーワールドカップ日本大会が控えております。ラグビードクターにとつてこちらも一生に一度の大舞台で、ピッチサイドでの医療を担当する予定となっております。自分にとって2019年と2020年はスポーツドクターとしてキャリアのクライマックスです。



女子ラグビーワールドカップ2017年アイランド大会でチームドクターとして



石橋頭

イギリス国営放送局「チャンネル4」が製作した、前々回ロンドン、前回のオリンピックCMを是非一度ご覧になってください。キーワードは、そこにあります。

パラリンピックに向けた活動

パラリンピックを、障がいに対する社会の意識を変えるきっかけにするための活動に

もののだと気付かせてくれるのです。

また、パラリンピックはスポーツだけではなく、文化芸術の祭典でもあるのです。私たちは、障がい者の文化芸術を振興していく法案を作り、成立させました。芸術活動に触れる様々な機会が提供されています。皆さまもぜひ、多様で新しい感性から生まれた文化芸術を御鑑賞ください。

東京修猷会の皆さまへ

パラリンピック本番、そして本番に向けた様々な企画やボランティアに積極的に御参加いただき、今までの常識を新たな発見と驚きに変えていただきたいと思います。



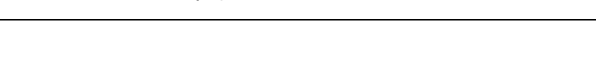
服部惣一(平成4年卒)

館友だより、2020年東京オリンピックパラリンピック企画、

2020年東京オリンピックパラリンピックが来年に近づいてきました。東京オリパラではポリクリニックのドクターの一員として診療を行う予定です。ポリクリニックとは選手村の中に設置される診療所です。世界中から集まるアスリートが不幸にもケガをしてしまった時に、的確な診断と治療をそこで行いオリンピックという大舞台でベストのパフォーマンスができるようにサポートします。

なぜ自分がそこに携わることができたのか?と問われると、職場のボスの力ももちろんですが、修猷時代の苦い経験のおかげと言わざるを得ません。

2019年にはラグビーワールドカップ日本大会が控えております。ラグビードクターにとつてこちらも一生に一度の大舞台で、ピッチサイドでの医療を担当する予定となっております。自分にとって2019年と2020年はスポーツドクターとしてキャリアのクライマックスです。



女子ラグビーワールドカップ2017年アイランド大会でチームドクターとして

着任のご挨拶

「知性・気概・社会性」と「絆」

第三十二代館長 高島 孝一



東京修猷会の皆様には、ご健勝にて益々のご活躍をお喜び申し上げます。また、日頃から母校の充実発展に、深いご理解とご協力、物心両面にわたるご支援を賜り、改めて感謝申し上げます。

私は昨年4月の人事異動で第三十二代館長に就任しました。3月23日に県教育委員会から内示を電話で受けた時は、驚きとともに身震いがありました。同月29日に業務引き継ぎで修猷館を訪れ、その夜に川崎同窓会会長をはじめ多くの同窓会役員の方々との宴席に出席させていただきました。あまり動じることがない性分の私が緊張していたことを今でも覚えています。しかしながら、川崎会長をはじめ多くの役員の方々温かさに触れ「よし。やっていこう。」いや「やれる。」との思いが湧き上がり、ひとつの覚悟ができたことを嬉しく思いました。4月に入り、県庁で辞令を交付された時には、生徒職員のため、修猷のために頑張ろうと再度誓いをたてたことを覚えております。

近年の高校には珍しく「生徒の自治」を大いに尊重する本校の伝統・文化は素晴らしいものであり、後世に引き継がなければならぬものであると感じています。その象徴が大運動会です。今ではスタンドを建ててブロック対抗での運動会は多くの高校で実施され、珍しいものでもありません。しかし、運営面では大きな差があります。教員は生徒を心優しく俯瞰して見守っていること。生徒は意地とプライドで、少しでも教員の指導を乞うことなく自らの力で最後まで運営していかうとすること。ここが他校と大きく違う点です。そして、本番当日をむかえるまでの生徒間での泣き笑い、くやしさが彼らを成長させていきます。大運動会が終わると生徒たちの目の色が変わってきます。3年生は自らの進路を深く考えて修猷に登校します。2年生は部活動で最上級生となり、運動部はグラウンド・体育館等で、文化部は活動教室等でリーダーシップを発揮していきます。1年生は、もうすぐ後輩が修猷の門をくぐってきます。彼らの学校生活を見てみるとわずか3年間という時間の中で「知性・気概・社会性」を自然と身に付けていくのだと改めて認識しました。そして、社会に巣立った後には多くの「絆」で結ばれた「館友」の方々がいっぱいいます。昨

年の本紙巻頭頁に歴代四代会長座談会で前東京修猷会大須賀会長が「修猷の卒業生は具体的な言葉にならない共通の『空気』みたいなものをハートのどこかに持っているような気がする。」とおっしゃられました。これこそが本校生活の中で生徒たちが知らず知らず身に付けていく伝統・文化であると私は思っています。個性豊かで特異な才能を持つ多くの仲間と切磋琢磨し青春を謳歌することで自らを成長させ、時代を越えて繋がる館友を思うことこそ修猷館教育の本流であると思っています。そのために少しでも館長として貢献できれば幸いに思います。

現在、およそ9か月が経ち、その中で感じたことをお伝えしたいと思っています。



昭和45年卒 学年便り

鈴木純 (昭和45年卒 常任幹事)

昭和45年3月に修猷館を卒業した我々519名(女子比率18%、現役進学率20%)は、働さざり40歳過ぎの同窓会幹事学年を迎えた機会に東京・福岡などで有志たちが集まり「しのごの会」を創りました。

今、私の手元には「修猷しのごの会 還暦旅行記念誌」があります(写真参照) 平成24年10月6日〜8日に伊勢神宮参拝と熊野古道馬越峠歩きの2泊3日の旅には71名が参加し、伊勢神宮福宜の渡邊和洋先輩(S43卒)の講話を拝聴、内宮早朝参拝、御神楽

2018年度寄付金

2017年11月1日から2018年10月31日までに多数の皆様から御寄付をいただきました。ありがとうございました。御礼の意味を込めて御名前を掲載させていただきます。(敬称略・卒年別)

- 修猷館同窓会、近畿修猷会、中京修猷会、(館長)高島孝一、(恩師)稲富広、(昭12)宮川一二、(昭19)田尻重彦、(昭20)野上三男、(昭22)増崎昭夫、(昭24)安藏復也、(昭25)山本義治、(昭26)小西正利、(昭26)常岡宏、(昭26)中村道生、(昭26)藤吉敏生、(昭28)児玉黎子、(昭28)松榮孝昌、(昭28)吉見健三、(昭29)山下一彦、(昭30)田中栄次郎、(昭30)遠山壽一、(昭30)長澤陸夫、(昭31)浅田恭夫、(昭31)岩佐寿夫、(昭31)影山滋、(昭31)岸川浩一郎、(昭31)中村保夫、(昭31)箱島信一、(昭31)村田和夫、(昭32)井上智晴、(昭32)國分英臣、(昭32)百歩修一、(昭32)和田聿生、(昭33)武石忠彦、(昭33)寺澤美和子、(昭33)貫隆夫、(昭33)米倉實、(昭34)讚井邦夫、(昭34)服部富美子、(昭34)行武賢一、(昭35)伊藤洋子、(昭35)可見晋、(昭36)安藤誠四郎、(昭36)大山恒子、(昭36)土井高夫、(昭36)濱地康彦、(昭36)横倉稔明、(昭37)大須賀頼彦、(昭38)上田茂、(昭38)渡辺紀大、(昭39)井手篤雄、(昭39)貝島資邦、(昭39)久保田康史、(昭40)井上浩、(昭40)棚町精子、(昭40)遠山昌利、(昭40)長谷川閑史、(昭40)福江一郎、(昭40)山形紀明、(昭41)有山賢良、(昭41)小川裕之、(昭41)高尾義行、(昭41)高木健二、(昭41)恒松芳一、(昭42)柴田裕実、(昭43)田中丸研二、(昭43)中村寛、(昭44)伊佐裕、(昭44)甲畑真知子、(昭44)坂井真知子、(昭44)與小田健、(昭45)鳥取章二、(昭45)本田由紀子、(昭46)鹿見島正信、(昭46)栗山英俊、(昭46)土肥研一、(昭49)井手富士雄、(昭49)古森光一郎、(昭49)橋村秀喜、(昭50)野中哲昌、(昭51)安東泰隆、(昭51)油田哲、(昭52)寺岡隆宏、(昭54)中原滋、(昭54)松尾隆広、(昭55)柴田幸一郎、(昭58)井手慶祐、(昭59)服部豊、(昭60)浦上浩光、(平3)堀井奈津子、(平4)藤村英樹、(平7)片岡達、(平21)原秀平

奉納を行いました。それまで京都での卒業30年修学旅行、福岡での卒業40年同窓会を経て、2年越しの準備のもと「しのごの会」最大のイベントは皆の思い出に残るものとなりました。それ以降も毎年、忘年会・新年会・花見・暑気払い・文化イベント等が東京・大阪・福岡などで開かれ、酒好き話好きの面々がいつも集まっています。 また、男子禁制の粋々会(福岡)ミモザ会(東京)などの女子会が「しのごの会」本体を凌ぐ活発な活動を行なっているのも時の流れのようです。 今年「しのごの会」から東京修猷会副会長に等健次君が就任しましたが、東北修猷会では出納克彦君が会長を、中京修猷会では満生修二君が幹事長、近畿修猷会では葦原直哉君が幹事長を務め、全国の修猷の集まりを支えてくれています。 最近では、残念なことに鬼籍に入る同窓生も出てきました。「しのごの会」の集まりを一期一会の交流の場として、これからも修猷の「絆」を諸先輩、後輩諸君と共に育んでいきたいと思っています。



還暦旅行記念誌

東京修猷会 年会費納入のお願い

東京修猷会の会報の印刷・発送をはじめ年間行事等の活動は、全て皆様の年会費3,000円で運営されております。どうぞ会費の納入にご協力ください。 ●年会費は年間を通じて受け付けております。 郵便振替、銀行振込、コンビニ振込、クレジットカード決済が選べます。二木会や総会の受付でも可能です。

- 郵便振替 口座名義：東京修猷会事務局 口座番号：00170-6-172892
- 銀行振込 銀行名：ゆうちょ銀行 口座名義：東京修猷会事務局 店名：019(ゼロイチキュウ) 店番：019 預金種目：当座 口座番号：0172892
- コンビニ振込 同封の振込用紙をご利用下さい。
- クレジットカード決済 東京修猷会のホームページから申込みください。 《東京修猷会 http://shuyu.gr.jp/tky/annualfee/》 お振込のうち年会費を超える額はご寄付とさせていただきます。 郵便振替・銀行振込は会員の特定が困難な場合があります。必ず卒年をいれるようお願いいたします。

執行部役員紹介



梶栗 新副幹事長 (平成元年卒)

この度、副幹事長を拝命しましたガンガン会の梶栗健吾です。 6年半前に42歳で初めて東京に住むこととなった私が、今こうして楽しい「大人の修猷生活」を送ることが出来ているのは、総会と二木会の幹事学年の活動を通して、同期だけでなく先輩後輩とのたくさんの再会や新たな出会いがあったからです。 より多くの方が楽しんでいただける同窓会となるよう尽力して参りますので、どうぞよろしく願います。

編集後記

平成最後の会報となった31号は「繋がり」をテーマに編集致しました。平成と新たな時代とが繋がる今年の会報には、新たにご就任された会長、副会長、修猷館高校館長より、ご挨拶をいただきました。これまでの歴史を振り返り、新しい時代に向かう本会へメッセージを賜りました。 今回、一篇一篇の玉稿を賜る中で、館友の「繋がり」の強さ、信頼の厚さを感じました。ご多用の中、本会報のために、ご協力くださった全ての方々に深謝いたします。ありがとうございます。

平成4年卒 朋猷会 会報編集担当一同